

第 13 回例会報告要旨

Y Brasluniau o'r Papurau, y Trydydd ar Ddeg,

Mai yr wythfed ar hugain, 2011

Daito Bunka Kaikan, Daito Bunka University, Tokyo, Siapan

第 1 部： 個別報告 Rhan 1: Papur

Preideu Annwfn (The Spoils of Annwfn[Otherworld]) について

吉岡 治郎

On Preideu Annwfn (The Spoils of Annwfn[Otherworld])

Jiro Yoshioka

Abstract: Preideu Annwfn (The Spoils of Annwfn) a well-known poem to Welsh scholars because of its inclusion in the famous *Llyfr Taliesin* (*The Book of Taliesin*), is less known outside Wales. The uniqueness of the poem is marked by the description of Arthur's expedition to Annwfn, somewhat unknown in other Welsh material. The Cauldron (well-known in Celtic culture) makes an appearance, its capture or destruction being one of the purposes of the expedition. The poem tells us more about Taliesin himself than its allusion tell us about the Arthurian adventure itself.

非常に多くの研究が発表されてきている「アーサー王（伝説）」についてはもちろんウェールズにも種々の関連資料が見出される。Bromwich, et al. eds.: *The Arthur of the Welsh* (1991, 1998) はウェールズ学を代表する諸学者たちによる綿密な論文の集成であり、今後のこの分野の研究の基礎となるものと思える。ウェールズ語で書かれたアーサー王関連の資料の一つとしてここで取り上げる Preideu Annwfn という 60 行からなる詩がある。本詩は著名な *The Book of Taliesin* (*Llyfr Taliesin*) に含まれているので、早くからウェールズの学者たちにはよく知られてはいたが、他の地域の学者たちには必ずしもよく知られていたとは言えない。R. S. Loomis が *The Spoils of Annwfn: an Early Welsh Poem* (*Wales and the Arthurian Legend* [1956] に収録されている) という論文で冒頭から 34 行までの紹介をしているが、半世紀近く以前の研究である。本発表者も Loomis の論文や他の学者の本詩に対する言及などでその存在を知ってはいたが詳しく読むこともなかった。近年になり Marged Haycock が 'Preideu Annwfn' and the Figure of Taliesin, *Studia Celtica* 18/19(1983-4) で、全体についての論考に加えて全詩を英語訳と注解を加えての紹介をなした。

その後他の学者たちの見解の表明もなされてきた。Haycock はその後 2007 年に *Legendary Poems from the Book of Taliesin* (550 頁を超える大著である) を出版したが、その pp.433-451 に本詩の解説、原文、英語訳、注解を発表した。解説は既に前稿で詳しい論考を発表しているので短い(2 頁足らず)が、英語訳は前訳に手を加えたものであり、注解は詳細であり、しかも同氏の前稿の注解と重ならない部分があるので、双方の注解を参照されることが望ましい。この *Preideu Annwfn* について触れている他の諸著も参考にしてウェールズ学以外のところでは知られることの少ない本詩の紹介をこの発表で試みる。今回の発表では本詩の内容の紹介が中心であり、ウェールズの他のアーサー王関連の資料との比較・対照(簡潔な説明は Sims-Williams により、*The Early Welsh Arthurian Poems*[*The Arthur of the Welsh* 所収]の中でなされている)などは見送ったことを初めに断わっておく。

- 1.制作年代 9世紀から12世紀の間、より詳しくはc.850-c.1150とされている。
- 2.Arthurは生涯12の戦いを行ったとされており、その位置の確定には色々と議論があるが、この *Preideu Annwfn* にみられる遠征はその中に位置していない。それでこの詩に記録されている遠征は Arthur の catalogue of adventures を広げることになると言われている。(Padel, 2000)。
- 3.Arthurの本詩での遠征の目的はつぎの三点であるとされている。

(a) Rescue of Gwair (b) Capture/Destruction of Cauldron (c) ?Capture of Brindled OX

4.Gwair(*TYP*にも姿を現わす)が *Caer Siddi*[異界(Annwfn)を指す語]に囚われておりその Gwair を救うために Arthur とその一行が Prydwen という名の船に乗り赴く、しかしその結果は悲劇的であり *namyn seith ny dyrreith*(=save nine none came back)という悲惨な事態になる。この *namyn seith ny dyrreith* という表現は refrain となり本詩の中に6度現れる。異界説話は多くの世界の説話にも残っており、ケルト民族の説話にもありアイルランドの説話が良く知られている。異界はウェールズ語では *Annwn* or *Annwfn* というが、その語源については very deep, not world, in the world と an-の意味の取り方については学者により見解の相違があり、まだその決着を見るにはいたっていない。*Llyfr Taliesin* に含まれている *Golychaf-i Gulwyd*(=I petition God) と本詩の記述をまとめると、早い時期のウェールズの資料の中で一番詳しい *Annwfn* の記述がえられる(the fullest description of the Otherworld that we have in the early Welsh material)として、Haycock(1983/4) が a~h に分けて説明している、その点でも本詩は貴重な資料を提供していることになる。Padel(2000)による It is a

fair assumption that the poem refers to an existing legend about an overseas expedition by Arthur: there would be no apparent motive for Taliesin to make the story Arthurian one if it were not so already.との興味深いコメントがある。

5.本詩ではまた考古学的な資料としてヨーロッパでも(Gundestrup, Denmarkが有名であるが、アイルランドでも多く)発見され、また文献にも姿をあらわす Cauldron (*Hanes Taliesin* [The Story of Taliesin], *Branwen Verch Lyr* [Branwen Daughter of Llyr], the Second Branch of *Pedair Cainc y Mabinogi*[the Four Branches of the Mabinogi]などに現れる)が出てくる。本詩の中では、この Cauldron については、以下の記述が見られる。

- a. kindled by the breath of nine maidens(ここにも nine が姿を現わす),
- b. the Cauldron of the Head of Annwfn (this title given to Pwyll [Pwyll は the First Branch of *Pedair Cainc y Mabinogi* の Pwyll Pendefig Dyfed [Pwyll Prince of Dyfed]の主人公])であること。
- c. It does not boil a coward's food.

6.Ych Brych (Brindled Ox) も *TYP*に姿を現す。

ここに述べてきたことから本詩がウェールズの諸々の伝承を背景にした作品であることが分かる。

7.本詩には Arthur 王の名前が出てきはするものの、アーサー王についての伝承よりもタリエシンについての伝承の方がより大きな意味を持つとされている。Padel(2000)はそれを次のようにまとめている、in that it tells more about Taliesin –his claims to different kinds of knowledge, his relationship with clerical scholars, whose learning was more limited than his own, and his tribute to the Christian God as his (sole?) acknowledged lord –than its allusions tell us about the Arthurian adventure itself.

参考文献 (本文中で触れたもののみ、書名をあげたものは含んでいない)

Padel, O. J.: *Arthur in Medieval Welsh Literature* (2000)

Bromwich, R.: *Troiedd Ynys Prydein, the Welsh Triads* (1978)

[3rd Ed.2006 は未見、省略 *TYP*]